



世界の整形外科分野の代表雑誌に掲載されました 甲府病院 スポーツ・膝疾患治療センター 落合 聡司

当センターで遭遇した2症例の報告が整形外科分野で代表的な国際誌Journal of Bone and Joint Surgeryに掲載され、今回NHOだよりに報告する機会をいただきました。本2症例は、確認し得た範囲ではいずれも世界で初めての報告となる極めて稀な病態であります。論文の概略は以下のとおりです。

〈論文1〉 An Osteochondral Lesion of the Lateral Femoral Condyle with Arthroscopic Appearance Resembling a Fried Egg. JBJS Case Connect. 2014 Nov 26;4

本症例は、離断した骨軟骨片が反転し母床に嵌入、固着したと思われる奇異な離断性骨軟骨炎の1例です。膝関節鏡による鏡視所



論文 1 Fig. 4a より転載

見ではあたかも目玉焼きの様な外観を呈していました。離断性骨軟骨炎に対する病期分類が諸家によりなされていますが、このような病態の報告例は今までありません。

〈論文2〉 A rare case of meniscal hematoma with hemarthrosis of the knee. JBJS Am. 2011 Sep 21;93 (18)

本症例は反復性の関節血症を伴う半月板血腫 (meniscal hematoma) の1例です。meniscal hematomaは非常に稀で、我々の調



論文 2 Fig. 2 より転載

べ得た範囲では2例の報告のみでした。いずれの報告例も内側半月板に生じ、本症例でみる外側半月板発生の例はなく、関節血症もみられていません。

論文内では世界的にも類をみないこれらの病態につき、詳細な形態学的特徴や治療法、治療経過、ならびに推測される病因につき論じています。

いずれも症例報告ですので偶然的要素が否めませんが、掲載採用は当センターの開設・発展の賜物ではないかと考えております。当スポーツ・膝疾患治療センターは2007年に国立病院機構甲府病院内に開設し、スポーツ傷害や膝疾患罹患症例に対する専門的な治療の提供に努めてきました。該当する疾患に対し治療が立ち遅れていた山梨県内において当センターは集約的に機能し、今回の様な極めて稀な2症例も紹介受診によって治療にあたる機会を得ることとなりました。貴重な経験を積むに至ったのは日頃の積み重ねの成果と考えています。また、対応してきた多数の膝疾患や、治療に際して読み漁った文献が、本2症例は極めて奇異であることの認識、ならびに説得力のある論文化の源となったと思います。

今回は症例報告でしたが、当センターでは臨床成績や考案した新たな治療方法なども積極的に発表・論文化することに努めています。また私自身も、アカデミックな臨床医師としてより良い治療を提供できることを目標としています。

論文の採用を頂くにあたり、論文作成に御指導をいただき、また2症例の治療にも携わっていただきました当院統括診療部長 萩野哲男先生をはじめ医療スタッフの方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。今後も世界に情報発信ができるスポーツ・膝疾患治療センターを目指していきたいと思っております。



萩野統括診療部長と筆者 (右)